



ミツ精機株式会社

代表取締役社長 **三津 千久磨** 氏

高度な技術に立ち向う
チャレンジ精神。
技術開発企業として
世界の空を翔ける！

PROFILE

1966年 淡路市生まれ。1993年 ミツ精機株式会社に入社後、取締役を経て2008年 社長に就任。社是・経営理念は会社の憲法であるとの信念のもと、すべての判断基準として事業を推し進めている。「会社を大切にすることは家族を大切にすることと同じだと、従業員の家族も大事にしてくれる」「働く時は働く、遊ぶ時は遊ぶ。切り替え上手なメリハリのある社長」とは社員たちからの声。休日はゴルフに出かける一方、淡路島ならではの季節の食材を使った手料理にもいそしみ、家族をはじめ周囲からの評価を楽しんでいる。



本社・多賀工場

—「ひょうごオンリーワン企業」認定のご感想をお願いします

このたびの認定は、創業時からの歴史と技術の蓄積があればこそ。OBの皆さん、仕事を発注くださるお客様、さらには地域のおかげです。弊社にとって、技術の独創性だけでなく、優位性、将来性、社会性も含めた総合力として評価いただいたことに意味があると思っています。我々の実力値を再認識してさらに高みをめざし、淡路市の活性化のためにも貢献できたらと思っています。

— 創業時から高難度な部品加工を手がけてこられました

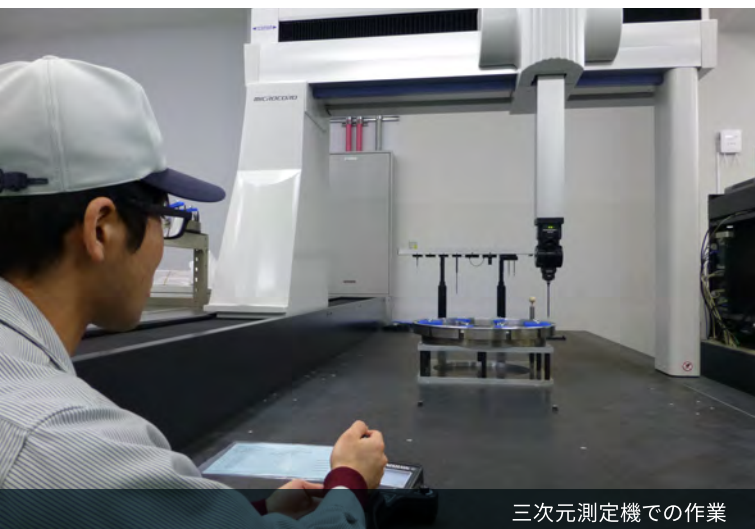
1933年に海軍艦艇の部品製作を開始したことが、弊社の始まりです。創業以来、高難度な加工技術への挑戦や、新規設備の導入に継続的に取り組んできました。現在は、航空機部品をはじめ医療・福祉機器部品や船用機器などを手がけています。創業者からは「下請けは不況に強い。今やっている業界がダメになったら、明日からでも違う業界の仕事をしていいのが下請けの特権だ」、「ウチは、車と家電はやめとけ。数モンは皆やりたい。皆やりたい仕事を『島』の会社がやっても勝てるはずがない」と教えられてきました。1979年から航空機部品の機械加工を手がけていますが、加工が難しい上にロットが少ない。その上、安全を保証するための管理が厳しく、設備投資にコストもかかります。本来、鉄工所が最もやりたくない仕事ですが、実はこの仕事が弊社の経営理念に合っていたんです。

一 御社の経営理念についてお聞かせください

弊社の経営理念は「常に高度な技術に挑戦し、時代に即応した製品を生み出す」こと。事業に取り組む上での判断基準は、すべてこの経営理念です。難しい仕事はおもしろい上、社員が成長します。その結果、会社もレベルアップするんです。航空機も医療機器も、部品に至るまで高い安全性が求められる製品です。中でも航空機部品は、耐熱性が必要なジェットエンジンや、強度が大切なランディングギア(脚)が中心。難削材を使った複雑な形状の部品を正確かつ効率的に加工する技術力と、安全性を保障する品質管理能力が求められます。弊社は、その両面において国内トップクラスです。これもすべて、難しいことに挑戦を続けてきたことによる技術の蓄積の結果だと思っています。機械加工は、最新鋭の機械やプログラムを使えばできるというものではありません。削って経験を積み重ねないとわからない世界です。過去の失敗の積み上げとデータの蓄積があって、初めてできる仕事なんです。弊社の場合、得意先からテーマ(仕事)をいただき、それに応えることで技術を身に付けてきたとも言えます。それが結果として、オンリーワン技術になったのかもしれない。

一 「島」という一見、不利に思える立地から独自の強みが生まれました

淡路島という立地は、地理的に不利な要素です。お客様も取引先も弊社に来ていただける機会が極めて少なく、生産技術、品質管理、刃具の再研磨といった周辺環境も、すべて自分たちで整備していかなければなりません。しかしこのことが、顧客に頼らず機械加工を受注できる環境と企業風土をつくり上げることにつながりました。



三次元測定機での作業



マシニングセンターのオペレート作業

た。下請けであっても自立をめざす生産体制というメリットに転換することができたんです。弊社の強みである自立型生産体制は、それに取組もうと思ってやってきたのではなく、すべて自社でやらざるを得なかった結果です。そのおかげで、弊社の大きな特徴の一つになったのが、特殊刃具の自社開発・制作です。通常、刃具の種類ごとに様々な条件でテストを繰り返す必要があり、労力と時間がかかるため外部に委託するケースがほとんどですが、弊社では30年以上にわたる実績と、安定した品質で量産できる設備も技術者も抱えているため、社内での製作が可能になりました。

一 「工作機械の性能」と「職人技」、経営資源が明確です

弊社は毎年売上高の10%を設備に、1%を人材教育に投資すると決めています。我々の強みは、最新鋭かつ一流の工作機械や検査設備を使っていることです。お客様の仕事のうち、開発・設計・加工・組立・品質保証という加工の一部を担うだけの弊社のような下請けは、お客様と同等かそれ以上の加工・管理技術がないと存在価値がありません。また技術者にとっても、一流の機械を使うことでレベルアップにもつながります。

一 職人技の継承やものづくりを、仕組み化されています

機械と人は両輪です。機械の全能力を引き出す職人が多く在席していることが、弊社のもう一つの強みです。現在は個人の技量に加え、良い製品をつくるための組織や仕組みといった「体制」が求められる時代です。できた



工場内の様子

製品が良いものであるためには、組織や仕組みでものを
つくり、そのプロセスを保証してゆくことです。弊社では、
職人が失敗しながら積み重ねてきた技術や加工ノウハウを、
データベースにして標準化しています。当社のも
のづくりを、ユーザーに安心してもらえる体制づくりに取組
んでいるのです。そのためにも、新入社員には見て覚えて
もらうのではなく、教材を使って教えてゆきます。その結
果、従業員のおよそ80%が国家技能資格を取得している
ことにつながっているのだと思います。

— 今後の展望をお聞かせください

現在弊社が保有している加工・管理技術は、あくまで
も通過点でしかありません。将来、航空機分野でさらなる
レベルアップができていないのか、他の分野にも取組め
ているのかはわかりませんが、現在と同じレベルの仕事
をしているようでは、弊社の存在価値がありません。今め
ざしているのは、航空機部品の一貫生産体制の構築で
す。弊社が複数工程を手がけられれば、顧客の負担を減
らすことにつながり、お客様は一層高度な仕事に集中で
きます。材料調達、検査、仕上げといった工程を引き受け、
弊社の仕事範囲を拡大できれば、売上のさらなる向上だ
けでなく顧客とのパートナー関係の発展も見込めると
思っています。

— 「オンリーワン」をめざす企業へのメッセージをお願い
します

淡路島という土地柄、弊社には本土の同業他社がやら
ない・やりたがらない仕事が自然と流れてきました。「こ
の分野を開拓しよう」といった目標を立てて来たわけ
ではないのです。「常に高度な技術に挑戦し、時代に即応し
た製品を生み出す」という理念を大切にしながら、ただ
頼まれた仕事を断らずにやってきただけです。そういう
意味でもオンリーワンとは、他社ができないことだけ
でなく「やらない・やりたがらない」ことに取組む姿勢も必
要なのだと思います。



職人技を継承する仕組みづくりに力を入れる

0.05gから1tまで、 豊かな生産技術力を支える職人技と自社開発の特殊刃具



特殊刃具を使った切削作業

刃具製作作業の様子

航空機部品の品質の決め手となるのは、使用する工作機械の性能・機能と、「職人技」と呼ばれる技術者の技能との組合せです。特にミツ精機株式会社が手がける航空機部品は難削材であるため、加工する際、ワーク（加工対象物）には圧力や加工熱がかかり、ひずみ、膨張、収縮などが起こります。それ以外にも材料のロットの違いによる影響もあり、加工は常に「一期一会」です。したがって、高性能・高機能の工作機械を保有するとともに、すぐれた技と感覚を持った職人が必要になります。このような工作機械

と、機械の全能力を引き出すことができる職人が多数在席している中小企業は、全国でも多くはありません。

ミツ精機株式会社では、主として生産技術課が技術革新等を担当しています。現在18名体制で工程設計等をプランニング。職人が試作を行い、培ってきた勘やコツを生産技術課へフィードバックし、加工プログラムに反映させています。

その中でも特徴的な技術が、特殊刃具の開発・製作です。自社での開発・制作は製作期間の短縮につながります。また、独自の特殊刃具は切削対象物である当

該部品に合わせて形状を決めるため、市販の汎用刃具を使うより効率的な切削が可能です。さらに、原価構成の中でも最もウエイトの高い加工工数の、劇的な短縮も可能となります。30年以上にわたる特殊刃具自社開発の実績と、安定した品質による量産可能な設備、技術者が、ミツ精機株式会社を支えています。



社内改善活動

開発に至った経緯

島という地理的に不利な条件により、1997年の明石海峡大橋開通まで、顧客や取引先などが来社する機会が極めて少なかったミツ精機株式会社。そのため、生産技術、品質保証、さらには機械加工に欠かせない刃物の再研磨も独自に整備してゆく必要がありました。その延長上で、特殊刃具の自社製作も手がけるようになるなど、機械加工を支援する周辺の体制や環境、自立をめざす企業風土をつくり上げてきました。

独自性

ミツ精機株式会社では、毎年売上高の10%を設備に、1%を教育に対する投資金額と定めるなど、長年にわたり最先端の工作機械や検査設備の導入と人材育成を継続しています。さらに要求される技術力、品質・生産管理力に対応するため、生産技術課、品質保証課といった支援部門も充実。「改援隊」と呼ばれる専属の改善活動支援要員も常時、複数名配備しています。

今後の展開

航空機の部品加工において、機械加工業は加工だけを請け負う形態が一般的です。しかしミツ精機株式会社では、将来的に材料調達、検査、仕上げ等の複数工程を手がける業態をめざしています。顧客は技術力のある外注先にまかせることで業務の負担を減らすことができ、一層高度な仕事に集中できます。かけがえのないパートナーとしての関係を発展させることで、顧客へ、さらには航空機需要の増加へ、さらなる貢献をめざしています。

TOPICS

働きやすい職場づくりに取組む企業として 「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」受賞!

兵庫県勤労福祉協会「ひょうご仕事と生活センター」が、多様な働き方の導入や仕事と家庭生活の両立の促進に取り組んでいる企業・団体等を表彰する、平成28年度「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」。働く人たちが、それぞれの能力や意欲を最大限に発揮できる職場環境の実現をめざすミツ精機株式会社も、職場の労働環境改善や仕事と生活の両立の仕組みづくりに取り組んでいる企業として、他の10企業・団体とともに受賞しました。



翼にこめた技術者の技と熱意 空を翔けた自衛隊航空機を一般公開

ミツ精機株式会社の本社・多賀工場では、自衛隊より貸与された7機の自衛隊航空機と実際に搭載されていたエンジンなどを展示しています。航空科学教育の普及や航空思想の向上につながることを願って一般に広く開放されており、誰でも無料で見学することができます。日々、目にする従業員にとっては航空機部品を製作する上で、品質への意識を高めるメッセージにもなっています。



沿革

- | | | | |
|--------------|-----------------------------------|--------------|--|
| 1933年 | 大阪市生野区において三津鉄工所創業 | 1986年 | ミツ精機株式会社に社名変更 |
| 1946年 | 兵庫県津名郡一宮町郡家に移転
船舶エンジンの製作・修理を開始 | 1987年 | 特機事業部を分離・独立し、ミツテック株式会社を設立 |
| 1959年 | ニット編機用付属装置及び同部品の生産を開始 | 1995年 | 本社を多賀工場に移転 |
| 1962年 | 株式会社に組織変更 | 2003年 | 厚生労働大臣表彰(技能検定関係)を受賞 |
| 1972年 | 中小企業庁より中小企業合理化モデル工場に指定 | 2004年 | 総務大臣よりふるさと企業大賞を受賞 |
| 1979年 | 優良申告法人に指定。航空機部品の本格的な生産を開始 | 2016年 | ワークライフバランス企業を認定取得
ひょうごオンリーワン企業表彰を受賞 |

会社概要

所在地 〒656-1522
兵庫県淡路市下河合301
電話 0799-85-1133(代表)
FAX 0799-85-2602
URL <http://www.mitsu.co.jp/>
従業員数 248名(グループ計318名)

資本金 4,950万円
設立 1962年4月
(創業 1933年4月)
代表取締役会長 三津久直
代表取締役社長 三津千久磨

事業概要

航空・宇宙機器部品の機械加工(ジェットエンジン部品、脚部品、人工衛星用の部品を製作)。医療機器部品・その他精密部品等の機械加工及びアッセンブリー。